

英語5技能教育特別部会(西日本エリア) 実施報告

一般財団法人日本私学教育研究所 主催/日本私立中学高等学校連合会 後援

国においては、グローバル化への対応の一環として、小・中・高等学校等を通じた抜本的な英語教育改革を推進しています。これを受け、大学入試の英語でも4技能の総合的な評価が拡大しており、各学校においてはこれらへの対応は喫緊の課題です。さらに、欧州評議会が作成した外国語学習者の言語能力を図る参照基準 CEFR では、学習者の自己評価においてコミュニケーションの形態を5技能に分類しています。

そこで当研究所では、私立学校の英語教育担当教員の指導力強化を図るため、5技能教育に係る特別研修事業を令和5年度に引き続き、東日本エリアと西日本エリアで実施致します。

◆ 会 期 ◆

令和7年2月21日(金)・22日(土)

◆ 会 場 ◆

2月21日(金)：神戸女学院中学部・高等学部(兵庫県西宮市)

〒662-8505 兵庫県西宮市岡田山4-1
(阪急電鉄今津線「門戸厄神」駅から徒歩約15分)

2月22日(土)：スペースアルファ三宮(兵庫県神戸市)

〒650-0021 兵庫県神戸市中央区三宮町1-9-1
三宮センタープラザ6階(JR「三ノ宮」駅から徒歩約5分)

◆ 参加者数 ◆

61名

◆ 参加対象 ◆

英語科教員 ※参加対象校は、都道府県私学協会加盟の私立中学校・高等学校・中等教育学校

◆ プログラム ◆

学校視察

視察校 神戸女学院中学部・高等学部

テーマ 「神戸女学院中学部・高等学部の英語教育について」

発表者 稲垣 祐子 神戸女学院中学部・高等学部英語科主任

刺賀 繭理 神戸女学院中学部・高等学部教諭

津村 真衣 神戸女学院中学部・高等学部教諭

● 視察校発表

● 研究協議

神戸女学院中学部・高等学部の英語科の先生方を交えて意見交換を行います。

Workshop

テーマ Teaching reading skills to Senior High School students

講師 Ross Malcolm ブリティッシュ・カウンシル英語教員研修トレーナー

The focus of reading tests such as the Common Test for University Admissions has changed in recent years, with candidates expected to read a larger volume of text at higher speeds and be able to compare ideas and transfer information between texts and graphs. This places a high burden on students reading fluency, their reading stamina and their working memory. This session will focus on how to support SHS students with these challenges.

◆ 日 程 ◆

時刻			12		13		14		15		16		17
			30	50	30		20		5	15		15	
2月21日(金)			受付	開会式	視察校紹介	視察校英語教育について		授業視察		施設見学(重要文化財)		研究協議	
時刻	9	10		11		12		13		14		15	16
			30			30		30				30	15
2月22日(土)	Workshop Session1(90分)		Workshop Session2(120分)			昼食		Workshop Session3(120分)			研究協議	閉会式	

◆ 日程表 ◆

【1日目】 2月21日(金)

〔会場 神戸女学院中学部・高等学部〕

12:00-12:30	受付 〔コミュニケーションセンター エントランスホール〕
12:30-12:50	開会式 〔コミュニケーションセンター内 コムホール〕 司会 川本 芳久 一般財団法人日本私学教育研究所理事・事務局長 ◇開会 ◇主催者挨拶 吉田 晋 一般財団法人日本私学教育研究所理事長 ◇視察校代表挨拶 森谷 典史 学校法人神戸女学院理事・神戸女学院中学部・高等学部部長 ◇研修会運営方針説明 平方 邦行 英語5技能教育特別委員長 ◇日程説明 稲垣 祐子 神戸女学院中学部・高等学部英語科主任 ◇閉式 ※荷物を全て持ち、アンジー・クルー記念館 1F 106 室に移動して下さい。
13:00-13:30	視察校紹介 〔アンジー・クルー記念館 1F 106 室〕 司会 稲垣 祐子 英語5技能教育特別委員 発表者 森谷 典史 学校法人神戸女学院理事・神戸女学院中学部・高等学部部長
13:30-14:00	視察校英語教育について 〔アンジー・クルー記念館 1F 106 室〕 司会 稲垣 祐子 英語5技能教育特別委員 発表者 稲垣 祐子 神戸女学院中学部・高等学部英語科主任 刺賀 繭理 神戸女学院中学部・高等学部教諭 津村 真衣 神戸女学院中学部・高等学部教諭 ※荷物を全て持ち、コミュニケーションセンター内 コムホールに移動して下さい。
14:20-15:05	授業視察(6限) 〔コミュニケーションセンター内 コムホール〕 中学1年生の英語授業を視察します。 司会 稲垣 祐子 英語5技能教育特別委員 授業者 太田久美子 神戸女学院中学部・高等学部教諭 Paul Ross RODRIGUEZ 神戸女学院中学部・高等学部教諭
15:15-16:00	施設見学(重要文化財) 〔コミュニケーションセンター内 コムホール〕 国の重要文化財に指定されたヴォーリス設計の校舎群を視察します。 司会 稲垣 祐子 英語5技能教育特別委員 案内 北條 敦子 学校法人神戸女学院理事・総務部長 ※貴重品以外の荷物は会場に残していただいて差し支えございません。
16:15-17:00	研究協議 〔コミュニケーションセンター内 コムホール〕 視察校教諭を交えて意見交換を行います。 指導者 稲垣 祐子 神戸女学院中学部・高等学部英語科主任 太田久美子 神戸女学院中学部・高等学部教諭 Paul Ross RODRIGUEZ 神戸女学院中学部・高等学部教諭 コーディネーター 佐々木 雄太 英語5技能教育特別委員

【2日目】 2月22日(土)

〔会場 スペースアルファ三宮 大会議室〕

9:00-10:30	Workshop Session1 <Foundation session: English for teachers> 司会 佐藤 貴明 英語5技能教育特別委員 講師 Ross Malcolm ブリティッシュ・カウンシル英語教員研修トレーナー
10:30-12:30	Workshop Session2 <Pedagogy session: Teaching reading at Senior High School: Demonstration + analysis> 司会 佐藤 貴明 英語5技能教育特別委員 講師 Ross Malcolm ブリティッシュ・カウンシル英語教員研修トレーナー
12:30-13:30	昼食 ※会場外ロビーにてお弁当を配布します。
13:30-15:30	Workshop Session3 <Pedagogy session: Teaching reading at Senior High School: Workshop + Micro-teaching> 司会 佐藤 貴明 英語5技能教育特別委員 講師 Ross Malcolm ブリティッシュ・カウンシル英語教員研修トレーナー
15:30-16:00	研究協議 講師を交えて意見交換を行います。 コーディネーター 中川 千穂 英語5技能教育特別委員
16:00-16:15	閉会式 司会 川本 芳久 一般財団法人日本私学教育研究所理事・事務局長 ◇開式 ◇総括 中川 千穂 英語5技能教育特別委員 ◇挨拶 平方 邦行 英語5技能教育特別委員長 ◇閉会

◆ **Workshop 概要** ◆ ※研修内容に多少の変更が生じる可能性があります。ご了承下さい。

2月22日(土) Teaching reading skills to Senior High School students	
Session 1 9:00-10:30 (90分)	Foundation session: English for teachers It's helpful for teachers to re-experience language lessons from the perspective of their learners. This session will focus on English for teachers, using a challenging reading text at C1 level. The text will deal with a contemporary topic. Teachers will actively participate as learners in a lesson with the following features. ・Content-led approach to reading ・Scaffolding of challenging features of the text ・Focused, interactive discussions based on the text ・Review of key language features from the text. Following this experiential session, teachers will be well prepared for Day 2's explicit focus on reading pedagogy for SHS students.
Session 2 10:30-12:30 (120分)	Pedagogy session: Teaching reading at Senior High School: Demonstration + analysis Model lesson, based on a typical SHS reading text. Focus on the following teaching and learning strategies. ・Local and global understanding of the text ・Building a text model ・Comprehension-monitoring ・Inferencing ・Teacher scaffolding
Session 3 13:30-15:30 (120分)	Pedagogy session: Teaching reading at Senior High School: Workshop + Micro-teaching Teachers will workshop a reading lesson with a shared text, incorporating key features of the morning session. Following this, teachers will micro-teach a part of their lesson in small groups.
Discussion 15:30-16:00 (30分)	Discussion (研究協議) Opportunity for participants to discuss topics raised over the course of the training.

◆ **講師プロフィール** ◆ **Ross Malcolm** ブリティッシュ・カウンシル英語教員研修トレーナー

タイ、マレーシア、南アフリカなどでの教師や試験対策を含め様々な年代に対する指導を経て、2015年から日本の文部科学省や教育委員会等の教員研修で講師及び教材開発を担当。修士(チチェスター大学)。専門は、外国語教師の専門性の向上。高等学校英語コミュニケーション用検定教科書「ENRICH LEARNING I, II, III」(東京書籍)の編集協力者。

ブリティッシュ・カウンシル英語教員研修トレーナーは全員 CELTA 及び DELTA 保持している(あるいは同等)。CELTA(Certificate in Teaching English to Speakers of Other Languages)、DELTA(Diploma in English Language Teaching to Adults)はいずれもケンブリッジ大学英語検定機構が授与する英語教授に関する国際資格。CELTA は、世界中にある TESOL/TEFL の資格の中でも、最も広く認められ高評価を受けており、知識・理論面と同様、実践面も重視。DELTA は英国の公的な資格・試験監査機構 Ofqual によってレベル7(大学院修士号と同等資格)として認定。

◆ **学校紹介** ◆ **学校法人神戸女学院** <理事長・院長 飯 謙>
神戸女学院中学部・高等学部 <部長 森谷 典史>

1875年に創立された中高一貫の女子校で、ミッションスクールとしては関西で最も長い歴史を持つ。創立以来「愛神愛隣」を永久標語とし、キリスト教に基づいた全人的教育を展開している。個性を大切に育て、培った知識や能力を自分のためだけに使うのではなく、社会や隣人に対しても奉仕できる人間を育てることを教育の理念としている。「生徒主体」の校風が特徴で、一人一人が自主性をもって、自らの果たすべき責任を十分に果たす人間になるという意味での「自由」を大切にしている。

英語教育においては、80年以上前から独自の教授法により、オールラウンドなコミュニケーション能力を身につける教育を実践してきた。根幹にあるのが Ms. Angie Crew が築いた Crew Method である。中学部の授業は原則全て英語で行われ、生徒たちは母国語のように英語を学ぶ環境に置かれる。1年生では週6時間のうち3時間がインターナショナル教員とのペアティーチングで進められる。英語教育の基礎を耳から植えつけるという考えから、まず英語を聴いてその動作をしたり、先生の発音をまねたりすることから学習を始める。歌やゲーム、物語の劇化、暗唱など、生徒の興味をひきつけ、積極的な参加を促す学習法を取り入れているのも特色で、臆せず英語を話す姿勢と能力を育む。中学部3年間で、高等学部卒業までに学習すべき基礎的な文法項目を習得するとともに、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの技能を駆使して、日常生活で意思疎通ができることを中学部卒業時の目標としている。

高等学部でも音声面を重視する方針には変わりなく、各学年週5~6時間のうち1~2時間は専任のインターナショナル教員単独のオーラルコミュニケーションの授業がある。単なる日常会話にとどまらず社会問題や文化比較などのテーマをとりあげ、映像や音声の教材を活用して学び、また調べたことや意見を発表する。週1回2時間連続の選択授業では、英語以外にも、フランス語、ドイツ語を学習することができる。授業以外に中学3年生以上の生徒達には、校外への英語スピーチコンテストへの出場を奨励している。また、インターナショナル教員や留学生とのふれあい、海外への留学、姉妹校(オーストラリアの Methodist Ladies' College)との交流、海外研修などの機会を提供している。進級するにつれてさらに磨きをかけた英語力で、卒業生は分野を問わず大学や社会で、国際的に活躍している。

約141,300㎡の敷地に広がるスパニッシュミッション様式の優美な学舎は、建築家ウィリアム・メレル・ヴォーリズ博士によるもので、2009年に国の登録有形文化財に指定された。2014年9月には、岡田山キャンパス創建時の校舎群12棟が「重要文化財神戸女学院」の名称で国の重要文化財に指定された。「真に芸術的な建築・学習空間は優れた人格を形成する」というヴォーリズの建築理念を知ることができる代表的な作品と評されている。

◆ 講師・発表者・指導員（順不同） ◆

Ross Malcolm	ブリティッシュ・カウンシル英語教員研修トレーナー
森谷典史	学校法人神戸女学院理事・神戸女学院中学部・高等学部部長
北條敦子	学校法人神戸女学院理事・総務部長
稲垣祐子	神戸女学院中学部・高等学部英語科主任
刺賀繭理	神戸女学院中学部・高等学部教諭
津村真衣	神戸女学院中学部・高等学部教諭
太田久美子	神戸女学院中学部・高等学部教諭
Paul Ross RODRIGUEZ	神戸女学院中学部・高等学部教諭
吉田晋	富士見丘中学高等学校理事長・校長
平方邦行	一般財団法人日本私学教育研究所理事・所長

◆ 特別委員・指導員（順不同） ◆

平方邦行	一般財団法人日本私学教育研究所理事・所長
稲垣祐子	神戸女学院中学部・高等学部英語科主任
中川千穂	工学院大学附属中学高等学校英語科主任
佐藤貴明	ドルトン東京学園中高等部教諭
佐々木雄太	吉祥女子中学高等学校教諭
岩瀬俊介	学校法人石川高等学校・石川義塾中学校教諭
川本芳久	一般財団法人日本私学教育研究所理事・事務局長

◆ 都道府県別参加者数 ◆

No.	都道府県名	人数	No.	都道府県名	人数	No.	都道府県名	人数
1	北海道	1	17	石川	0	33	岡山	2
2	青森	0	18	福井	2	34	広島	3
3	岩手	0	19	山梨	0	35	山口	3
4	宮城	0	20	長野	0	36	徳島	0
5	秋田	0	21	岐阜	1	37	香川	0
6	山形	0	22	静岡	0	38	愛媛	0
7	福島	0	23	愛知	3	39	高知	0
8	新潟	0	24	三重	5	40	福岡	1
9	茨城	0	25	滋賀	1	41	佐賀	1
10	栃木	0	26	京都	2	42	長崎	1
11	群馬	0	27	大阪	13	43	熊本	4
12	埼玉	0	28	兵庫	6	44	大分	0
13	千葉	0	29	奈良	0	45	宮崎	0
14	神奈川	2	30	和歌山	0	46	鹿児島	3
15	東京	5	31	鳥取	2	47	沖縄	0
16	富山	0	32	島根	0	計 20 都道府県 61 名		

◆概要◆

令和7年2月21日(金)～22日(土)、神戸女学院中学部・高等学部(兵庫県西宮市)及びスペースアルファ三宮(兵庫県神戸市)において開催した。全国より英語科教員61名が参加し、初日は授業視察や国の重要文化財に指定されている同校の施設見学、森谷典史・学校法人神戸女学院理事・神戸女学院中学部・高等学部部長による学校紹介、稲垣祐子・同校英語科主任らによる発表、同校英語科教員を交えての研究協議を行った。2日目はRoss Malcom・ブリティッシュ・カウンシル英語教員研修 트레이ナーによるワークショップを実施した。2日間を通じて参加者は意欲的に研修に取り組み、当部会は成功裏に終了した。

2月21日(金)

◆開会式◆

○主催者挨拶(吉田 晋 一般財団法人日本私学教育研究所理事長)

視察を受け入れていただいた神戸女学院中学部・高等学部の先生方に感謝申し上げます。学校毎に生徒も英語教育も異なるが、何らかのヒントを得て自校の教育に活かすことは可能で、それこそが本研修のメリットである。2日間充実した研修となることを願っている。



○視察校代表挨拶(森谷 典史 学校法人神戸女学院理事・神戸女学院中学部・高等学部部長)

3学期の多忙な時期に全国の学校より本校へ集まっただき感謝する。本日のプログラムを通して本校の英語教育について、また神戸女学院を知っていただければと願う。



○研修会運営方針説明(平方邦行 一般財団法人日本私学教育研究所所長)

昨今の日本の大学入試において、推薦型選抜や総合型選抜の合格者の英語レベルの上昇が顕著である。世界の中で日本がどのように渡っていくかを念頭に置いて教育に当たる必要がある。また国の重要文化財である神戸女学院の施設見学を通し、国際的な視野を広げる機会としてほしい。



◆視察校紹介◆

(森谷 典史 学校法人神戸女学院理事・神戸女学院中学部・高等学部部長)

1873年、米国伝道会から派遣された2名の女性宣教師によって私塾が開設された。その後、1875年に語学学校として正式に設立され、1894年に「神戸女学院」と改称。1933年には西宮へ移転した。本学院の建学の理念は二つある。第一に、聖書に基づいたキリスト教教育を実践すること。第二に、国際理解の精神を育むこと。中等・高等教育では、これらを実現するための英語教育に力を入れている。創設当初、アメリカから来た宣教師たちは、日本の女性が男性の一步後ろを歩く姿を目にし、自由で自立した女性の育成が必要だと強く感じた。その思いから、本学院では個性を尊重し、自由で教養豊かな女性の育成を教育の目標としている。本学院の魅力について生徒に尋ねると、多くが「学校の環境の美しさ」を挙げる。本校の建物は、アメリカの後援団体によって建設資金がすべて拠出されており、非常に美しい校舎が整えられ、映画のロケ地としても使用されることがある。



本学院では、キリストの教えに倣い、教員も生徒も「良き手本」となるよう日々の生活を心がけている。そして、「愛神愛隣」を永久標語とし、単に謙虚であることをよしとするのではなく、「誰よりも強い能力を身につけてこそ、誰かの役に立てる」という考えを生徒たちに伝えている。本学院が大切にしているのは、自らの進む道を自らの意思で決定し、心震える瞬間を通して新たな自分に出会い、未来を切り開いていくこと。そのため、単なる受験のための学校ではなく、将来どのように生きていくのかを考え、「信じる心」を養う場でありたいと考えている。こうした教育を通じて、各々の能力を他者のために生かすことができる女性の育成を目指している。

◆視察校実践発表◆

(稲垣 祐子 神戸女学院中学部・高等学部英語科主任、刺賀 繭理 神戸女学院中学部・高等学部英語科教諭、津村 真衣 神戸女学院中学部・高等学部英語科教諭)

神戸女学院の英語教育の代名詞となっているクルー・メソッドは、1930年より30年以上に亘り宣教師、英語科教諭を務めたアンジー・クルー氏により編み出された英語教授法である。“Learn as a baby learns.”の考えに基づき英語のみで授業を行うことで、生徒は一語一語を日本語に置き換えることなく、英語を直接理解できるようになる。本校では英語を帰納的に学ぶことを重視し、生徒自身が多くの英語を聞きながら、言語の法則を自然に導き出せるよう指導している。また英語を「別世界のもの」ではなく「日常生活の一部」として実感させることを大切にしている。例えば“*That is a window.*”という表現を教える際には、“*Point to the window.*”と指示し、生徒自身が窓を指さしながら発話することで、実際の体験を通じた学習を促進する。



中学1年生の4～5月には発音カードを活用し、英語の正しい発音を聞いたり言ったりしながら英語体験を積み重ねることで、日本語を介さずに英語で考える力を養うことを目指している。英語圏の子どもが英語を習得する過程をたどっていくため、文法指導の順序にも工夫を施している。まず命令文を学び、その後、現在形より前に現在進行形を指導することで、自然な言語習得を促す。中学1年後半から2・3年生にかけては、物語を活用した読解指導を実施する。生徒は、耳で聞いた文章を別の表現に言い換えたり、前後の文脈を手がかりに意味を理解したりしながら、徐々に長い文章の読解力を高めていく。

中学1年生の授業は、4名の教員チーム（インターナショナル教員1名、日本人教員3名）によって指導される。授業は週6回あり、1・3・5回目はペアティーチングによる新規学習、2・4・6回目は復習授業を行う。この「新しい学習と復習の3セット」を基本構成とし、学習の定着を図っている。また、3回の復習授業のうち2回はクラスを半分に分けて同じ授業を実施し、個別対応を強化している。本日の授業は、ペアティーチング形式で物語を扱う授業である。

◆授業視察◆

（太田久美子・神戸女学院中学部・高等学部英語科教諭、Paul Ross RODRIGUEZ・神戸女学院中学部・高等学部英語科教諭）

中学1年生の授業を視察した。教員が音読したChrysanthemumの物語の内容を、生徒が口頭で表現する活動を行った。事前に指導された新出単語を組み込みながら、ペアで練習し、その後、挙手して発表する形式で3セット実施された。

参加者からは「All Englishの素晴らしい授業で、生徒の積極性が印象に残った」「授業のレベルの高さと、発音指導が徹底されている点に驚いた」などの感想が寄せられた。



◆施設見学◆

（北條敦子・学校法人神戸女学院理事・総務部長）

図書館、チャペル、講堂など重要文化財指定のヴォーリズ設計の校舎群を一級建築士である北條理事の案内により見学した。建設当時の姿を色濃く残すチャペルでは、着席して説明を受け、計算された窓の設計によって差し込む陽光の美を堪能した。



◆研究協議◆

（稲垣祐子・神戸女学院中学部・高等学部英語科主任、太田久美子・神戸女学院中学部・高等学部英語科教諭、Paul Ross RODRIGUEZ・神戸女学院中学部・高等学部英語科教諭）

参加者のグループ協議後、授業実施者が質問に回答した。外国人教員の採用、挙手の頻度、発話速度、教材、筆記指導、理解度確認方法、評価と考査、学外での学びについて意見交換を行った。



2月22日(土)

◆Workshop◆

<Teaching reading skills to Senior High School students>

（Ross Malcolm ブリティッシュ・カウンシル英語教員研修トレーナー）

本ワークショップは高等学校の英語教育における読解スキルの向上を目的とし、共通テストなどの高度なリーディング試験に対応できる具体的な指導方法を学ぶことを主な目標とした。

本ワークショップでは、次の点に重点を置いて指導が行われた。

- ・読解スキルの4つの要素（リファレンス、メンタルモデル、流暢さ、推測）の理解と実践
- ・語彙指導の工夫と効果的なアプローチ
- ・共通テストにおける読解問題の攻略法
- ・スキミングやスキニングなどの読解戦略の活用方法
- ・音読やペアワークを通じたフルエンシー（流暢さ）の向上
- ・背景知識の活用を通じた読解力の強化
- ・生徒が能動的に学習できるようにするための活動の工夫



ワークショップは3つのセッションに分かれ、講義・ワークショップ・ディスカッション・模擬授業などの多様な手法を用いて進行した。

Session 1: Foundation session: English for teachers

このセッションでは、英語教員が「生徒の立場で」読解に取り組みながら、「読解スキルの4つの要素（リファレンス、メンタルモデル、流暢さ、推測）」を実践的に学んだ。

1. リファレンス（指示語）の理解

指示語（he, it, this など）の追跡スキル

ワーク：文章をペアで読み、指示語が指している対象を特定する練習。

課題：「We took a photo with him.」における him が誰を指すのかを推測。

2. メンタルモデル（場面のイメージ化）

「顔認識能力」についての英文を用いたストーリー整理

文章の流れを視覚化するために、情報を順序立てて整理する活動。

「チームが侍像を見つけられず → 助けを求めた相手がペットの猿を連れていた → その人物と写真を撮った → その写真がウェブサイトに掲載された」という流れを図にまとめる。

3. 流暢さ（フルエンシー）の向上

- ・共通テストの読解問題分析:6300語の文章を18分で読まなければならないため、読解速度の向上が必要。
- ・ワーク：受講者が英文を黙読し、読了時間を計測。その後、音読を行い、再び時間を計測し、音読後の方が早く読めることを体験。

4. 推測（インファレンス）

- ・比喩の理解：「I want to see a picture of you wearing the gold medal.」の gold medal は、「努力の結果として得られる報酬」の比喩であることを学ぶ。
- ・ワーク：文章中の比喩表現を探し、それぞれの意味をグループでディスカッション。

午後のセッション開始前に、参加者同士の交流を促進するため、座席のシャッフルが行われ、助成金の申請や学校ごとの教育実践について、異なる学校の教員同士で意見交換することが推奨された。

Session 2: Pedagogy session: Teaching reading at Senior High School: Demonstration + analysis

1. 読解と他のスキルの統合

- ・読解をスピーキング・ライティングと関連付ける方法を検討。
- ・模擬授業：生徒が読んだ内容を要約し、ペアの相手に説明する。自分の言葉で説明することで、文章の理解度を高める。

2. 共通テスト対策

- ・スキミング・スキヤニングの実践：
- ・ワーク：限られた時間内で必要な情報を見つけるスピードリーディングの練習。

3. Amelia Earhart の伝記を用いた読解指導

- ・背景知識：1920年代の女性の社会的役割について学ぶ。
- ・ワーク：「なぜ Amelia の生き方は当時の人々にとって衝撃的だったのか？」について意見交換。

Session 3: Pedagogy session: Teaching reading at Senior High School: Workshop + Micro-teaching

- ・実際の授業で活用できる指導技法を学ぶ。
- ・音読やペアワークを活用し、流暢さを高める指導法を学ぶ。

Discussion: Discussion (研究協議)

全体で以下のテーマについて協議した。

- ・本日の研修で学んだ最も重要なポイントは何か。
- ・明日からの授業で実践できることは何か。
- ・授業改善のためにどのような工夫が必要か。



◆閉会式◆

総括（中川千穂 英語5技能教育特別委員）

2日間の研修を通し、多くの知識や仲間を得られたことと思う。それぞれ勤務校へ戻った後は、現状に大きな変革を起こそうとするのではなく、まず「自分から」、そして「小さなことから」実践し、変化を生み出してもらいたい。



◆参加者アンケートより◆
回答数：25／参加者数 61 名＜回答率 40%＞
内オンラインフォーム回答数：9＜利用率 36%＞

○視察校紹介について

- ・伝統ある校舎、学校の精神がとてもよく伝わった。
- ・キリスト教精神に基づいた教育に感銘を受けた。
- ・学習環境が整っており、私学の魅力作りという点において、大変参考になった。

○視察校実践発表について

- ・ペアティーチングが計画的に実践されており、効果的な学びがもたらされていると感じた。
- ・発音記号を使った音声導入が素晴らしかった。
- ・英語科の協力体制が素晴らしいと思った。

○授業視察について

- ・生徒が楽しそうに、積極的に授業を受けている様子が印象的だった。安心して発言できる環境づくりが日頃からなされているのだろう。答えや発言を引き出すような投げかけが大いに参考になった。
- ・中学生ながら r の発音がきれいで、音読指導の大切さを改めて感じた。
- ・数文ごとに新ワード、フレーズを導入する形式が生徒の集中や理解のために非常に良い方法だと感じた。

○施設見学について

- ・伝統あるキャンパスに感動した
- ・重要文化財を一級建築士の目線で説明していただき、非常に興味深く感じられた。
- ・素敵な環境で、生徒が学校を大切に使っていると思った。

○研究協議(1日目・2日目)について

- ・他校の実情を含め、勉強になる問答の数々に大変刺激を受けた。
- ・質問にも丁寧に答えていただき、他の方の違う視点からの質問もとても参考になった。
- ・あっという間に思えるほど充実していた。すぐに授業に生かせる学びだった。

○Workshop について

- ・クオリティが高く、大枠から細かいところまで授業に取り入れられそうな要素が多く参考になった。
- ・とても分かりやすくペアワークも多かったので、長時間の講義でも苦にならなかった。勉強になった。
- ・共通テストへのアプローチが興味深かった。